

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム銀杏の木	ひいらぎの棟	
所在地	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2		
自己評価作成日	平成28年2月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年2月22日	評価結果確定日	平成28年3月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者の方々が安心して生活できるように環境作りを行い、利用者に合った介護に努めている。又、利用者の重度化が進んでいる為、個別でのコミュニケーションやリハビリ等の対応を行っている。軽度の利用者にはスタッフの手伝いをして頂いたり、時間がある時には外出をしたりしている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開設して10年目を迎えている「銀杏の木」は、住宅と畑が混在する県道沿いに位置し、敷地内には同法人の住宅型有料老人ホームが併設されている。町内会に加入し、地域行事や事業所行事を通じた交流を重ね、ボランティアの方々の来訪する機会も多い。また、現在入居者の心身の低下も見られるが、外気にふれることを大切にたえ、家族との連携も図りながら日常の活性化に努めている。サービスの向上に向けて研修体制の充実を図り、外部研修参加や講師を招いての内部研修が実施されており、運営推進会議や八女地区のグループホーム部会での活動を通じて、行政との連携も図っている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングや玄関に理念を掲示しており、全体会議時には全職員で理念の唱和を行い、理念の共有と実践に努めている。	開設時の職員全員で作り上げた「自由・安らぎ・温もり」の理念を、事業所の玄関、事務所、共用空間に掲示している。全体会議での唱和、事業所便りへの掲載をすることによって、共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、小学校の運動会を見学している。又、ホームが主催する縁日などの催しには地域の方達を招待して交流を行っている。それ以外にも、ボランティアグループを招いて演芸を行ってもい交流を図っている。	町内会に加入している。開設して10年目を迎え、地域の長延祭り等、行事や活動への案内を受け、また、事業所の銀杏祭りに招待する等、双方向での交流を図っている。また、地区のボランティアグループの来訪を受け、演劇等の催しを通じて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを訪ねられた方への介護相談にのる等、認知症の方への理解や方法を地域の人々に向けて活かしていけるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では内容の充実を図る為、各委員の方々に意見を求め発言して頂ける様に努めており、活発な意見交換が行える会議を目指している。 また、取り込める意見については取り込み、サービス向上に活かす様に努めている。	運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催されている。家族、区長、元区長、民生委員、町役場職員で構成されている。運営状況報告、ヒヤリハットの事例報告などを具体的に示し、評価を受け、アドバイス等を頂き、より良いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	八女地区グループホーム部会の研修へ参加したり、役場や社会福祉協議会へ出向いては相談を行う等の機会が増えている。	運営推進会議や八女地区の「介護保険事業者連絡協議会」のグループホーム部会への参加を通じて、町役場担当者、地域包括支援センターとも連携し相談アドバイスを得ている。ケースワーカーの事業所訪問もあり、情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職場内研修を実施し、身体拘束についての勉強会を行っている。それにより、全職員がしっかりと理解、認識し、身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束排除・高齢者虐待防止や認知症ケア、リスクマネジメント、薬の副作用等の研修に年間計画の中で取り組み、様々な視点から職員の意識や理解を深めている。日中の玄関の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職場内研修を実施し、虐待防止についての勉強会を行っている。 それにより、全職員が虐待防止の理解と認識をして、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より専門の講師を招き、全職員で受講し学んでいる。 今後は、学んだことを活用できるように努める。	成年後見制度、日常生活自立支援事業に関しては、外部講師を招き研修を行っており、個々の必要性を把握しようとしている。利用者には入居時に詳細に説明し、玄関にパンフレットを置き、活用を支援している。	
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等については、その都度十分な説明を行い、不安や疑問点には対応を行い、理解納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの不満や意見、苦情については、その都度傾聴し、相談等に応じている。 意見箱を設置しているが、なかなか活用されていない為、来訪時に意見、要望を聞きだすように努めている。	家族懇談会を開催し、意見や要望を情報収集している。個別対応として、家族の訪問時に、意見や苦情等の聴取に努め、運営に反映できるよう努力している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議にて、意見交換や提案などを聞く機会を設けており、意見等を反映させている。	毎月1回全体会議を行っている。その場にて職員からの提案、意見、要望等の収集に努めている。年に1回、職員面接では目標設定や評価を行い、個人的な意見や状況を把握するとともに、やりがいや向上心につながるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回全職員に自己評価を行っており、目標や成果、意見要望等を記入してもらい職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢、経験等関係なくやる気を重視している。又、事業所で働く職員についても、自由に自己実現が出来るよう配慮している。	職員の募集、採用にあたり、年齢や性別、資格、経験等で採用対象から排除していない。個人の能力、やる気を重視し、外部研修、内部研修を通じて、スキルアップを図り、自己実現に向かえる環境づくりに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部からの講師を招き、全職員で受講し学んでいる。職員の意識を高め、日々のケアにも浸透していく様に取り組んでいる。	社会保険労務士を講師に招き、権利擁護制度に関する内部研修を実施したり、認知症ケアや緩和ケア、虐待防止等の研修実施を通じて、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、研修案内等を回覧し情報提供するとともに、必要に応じ勤務として取り入れ参加している。又、内部でも勉強会を実施しており、日々の業務のなかでも指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修参加にて交流の場としている。特に八女地区グループホーム部会の研修には必ず参加し、情報交換等を行い、サービスの質の向上を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接を行い、本人の要望等をうかがっています。 又、ホーム内を見学してもらい納得された上で入所して頂けるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の話聞き、相談等には親身になって対応し、十分に説明を行いホーム内の見学も含め納得していただけるように努めた対応を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時はニーズを見極め対応策を共に検討し、必要時には他のサービス利用の紹介とを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、お互いに協力しながら生活している。 利用者の出来る範囲で役割を持ってもらい、共に寄添い、支え合い助けあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い、話し合いや相談を行いながら、共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、馴染みの人達との関係が途切れない様、場所や時間を有効に使っていただき、馴染みの関係が継続していけるように支援している。	家族との連携を図りながら、定期的にお墓参りや以前住んでいた地域の敬老会へ参加する方や、週に1回の帰宅を継続されている方もおり、馴染みの関係性の継続に向けた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の精神面を把握した上で、他者との関わり合いがその利用者にとってより良い関係となる様に、気を配りながら常に支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人や家族からの相談や支援などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の要望、意向になるべく近い暮らしとなる様に、検討して話し合いを行っている。又、センター方式を活用して情報の収集を行っている。	センター方式を採用している。利用者、家族の希望、要望を把握し、意向に沿えるように全体で考慮し、可能な限り努力している。又、日々の会話の中から、ヒントを得、それを積み重ね、本人の意向を尊重し、支援に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、家族等からの話を情報シートに記入し把握している。 新しい情報等も、職員同士で常に共有できる様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行っている。 普段と少しでも心身に変化見られる場合は、観察に努め、看護師との連携も図りながら、些細な事にも気づけるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に話し合い、検討しながらより良い実践可能な介護計画を作成している。介護支援専門員、看護師が参加したカンファレンスも実施している。	3か月毎のモニタリング、カンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。本人、家族の意向を踏まえ、主治医や看護師の意見をもとに協議を行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身体面の変化、ケアの実践結果等を正しく記録するように努めている。 又、必ず申し送りを行い常に職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の声を聴き、どうしたら喜んでいただけるか話し合いその時々合わせた対応が出来るよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れなど、地域との関わりを大切に出会いふれあいを大事に楽しく暮らして行けるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、訪問診療医との連携をとり、常により良い医療支援に努めている。	これまでのかかりつけ医への受診については、家族との連携も図りながら支援を行っている。また、月に2回、協力医療機関より訪問診療も実施されている。看護職員が配置され、医師や家族との連絡調整を行い、適切な医療受診やよりよい生活の継続に向けて支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態は職員同士、常に情報共有している。 看護師とも同じ様に情報共有しており、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは情報交換に努めている。 入院中の状態なども連絡を取り合い、状態を見に行くなどして、退院後の対応にも努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と看とりについて、説明と書類へのサインなど、終末期の生活について十分話し合いを行い、より良い支援が出来るよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方については、指針として明文化し、入居時に説明を行い同意を得ている。これまでに看取りの経験もあり、協力医療機関による緩和ケアに関する研修参加や、内部でもターミナルケアに関する研修を実施し、意識や理解を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年二回、防災訓練と救急講習を受けている。 全職員対応できる様に努めている。 又、マニュアルを準備し常時設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、夏と冬に日中、夜間帯の災害を想定し防災訓練を行っている。 又、運営推進会議の委員の方にも参加して頂いている。	消防署の指導のもと、避難訓練を年2回実施している。消火訓練、AEDを用いた心肺蘇生法の講習を受け、全職員が対応できるよう体制を整えている。運営推進会議の委員の参加を得、協力体制を構築している。ユニット毎に災害時備蓄をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーを大切にし、感謝の気持ちを忘れず一人ひとりに合わせた言葉かけ、対応を行っている。 又、記録、個人情報の管理は、保管場所を決め確保できている。	新任職員研修としてマナーや接遇に関する外部研修参加や、尊厳・プライバシー保護に関する研修を年間計画の中に位置付け、職員の意識を高めている。また、センター方式も活用しながら個人の理解に努め、人格やプライドの尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を表せるように働きかけ、各自の理解力に合わせて説明を行い、本人の意思を尊重し、自己決定が出来る様支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしい暮らし方が出来る様に支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服、季節に応じた服を着て頂く。又、ご家族に協力をお願いし、おしゃれが出来る様支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日実行できていないが嚥下体操を行い、楽しく食事が出来る様に声掛け見守りを行っている。又、自力接種できない方には、その方のペースに合わせた介助を行っている。	栄養バランスやカロリー計算された献立をもとに、嗜好や形態等に配慮しながら、職員が交代で調理を行っている。旬の食材や季節行事に合わせたメニュー、郷土食等も取り入れている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーを計算された献立表をもとに食事を作り、利用者様に合わせた量、食事形態を工夫し、食事、水分摂取量を確保できるよう支援を行い、摂取量の記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けしている。自力で出来ない方に対しては、声掛けをしながら介助を行っている。義歯の方はケースに入れ洗浄液につけてもらっている。毎週、歯ブラシとコップの消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンに応じて、細めに声掛けを行っている。 又、オムツ使用者に対しては出来る限り日中はトイレでの排泄をして頂くように声掛け誘導を行っている。清潔を保つために清拭を行っている。	個別の排泄状況を確認し、パターンの把握やサインを見逃さないよう観察しながら、日中はできる限りトイレでの排泄を支援している。夜間は個別の状況を検討しながら支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし、水分補給の声掛けを細めに行い、服薬や座薬等を調整しながら便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、体調面や本人様の希望にて実施している。シャワー浴や清拭を含めいつも清潔な状況でいられるように支援している。	一日おきの入浴スケジュールは設定されているが、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴や清拭を含め柔軟な対応に努めている。清潔保持に留意しながら、無理強いとにならないよう対応を工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息したり、気持ちよく眠れるように室温や照明などにも注意し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に基づいて服薬支援を行い、服用時にスタッフは、日付、名前の二重、三重チェックを行っている。状態、症状の変化を看護師及び医師に報告し、支持を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で役割を持っていただき張り合いや喜びを感じてもらっている。元気に応じて散歩やドライブに出かけ気分転換をして頂ける様支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月の行事に合わせドライブ等を行ったり、家族の協力にて自宅へ戻られたり外食へ出掛けられたり気分転換をしていただく支援を行っている。	季節の花見やドライブ等の行事を企画し、日常的にはベランダでの日光浴や周辺の散歩に出かけている。家族との連携により、外食等の支援も行われている。重度化へと移行する中で、できる限り外出できるよう努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は殆んど施設で行っているが、本人の希望や必要に応じて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時は家族へ連絡を取ったり季節ごとに送られてくる葉書きなど渡している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置き、季節感のあるレイアウトを施している。 居心地がよく過ごせる様に、適温を保ったり、動きやすいようにテーブルを配置している。	リビングには久留米絨の民芸品が壁に掛かっていたり、所々に観葉植物が配置されている。寛ぎコーナーにはソファ、個人用の椅子も配置され、それぞれの方にとっての居場所の確保に配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が席を共に出来る様にしている。 ソファも自由に使用されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾られたり、馴染みの物を持ち込まれ使用されている。	全室洋間で、ベッドやクローゼットが備え付けられている。家具や仏壇等が持ち込まれ、写真等が飾られている。シンプルな居室も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に動けるようにあらゆるところに手すりを配置し危険につながるものを置かない様表札を入口につけている。		